

黒羽地区市政懇談会

日 時：令和元年7月11日（木）午前9時30分～正午
会 場：黒羽庁舎 多目的ホール



懇談テーマⅠ 『安全・安心な地域社会について』

北滝側の御亭山入口にポケットパーク的な公衆トイレと休憩施設等の設置をお願いしたい。

【回答】

ご要望の箇所につきましては、主要地方道那須・黒羽・茂木線と市道北滝14号線との交差点となり、道路が鋭角に交わる丁字路であることから、視野の確保・安全確保のための隅切り用地としておりますので、建物を建築する場所としては適していません。

また、市道北滝14号線とその道路に沿って流れる河川の間土地につきましては、国交省の河川敷となります。

公衆トイレ設置のための十分な広さの確保が当場所では困難であると思われるため、公衆トイレの設置は現在のところ考えておりません。

懇談テーマⅡ 『少子化・子育て・男女共同参画について』

①本年の3月31日をもって販売が廃止となった子育て支援券について、その効果と実績等、廃止に伴いどのような影響があるか伺いたい。

②市では、給食費無料化、子育て支援センターや子ども未来館などを設置して、積極的に子育て環境の整備をしているが、少子化対策についてどのように考えているか伺いたい。

【回答】

①子育て支援券が市内取扱店で消費されると、取扱店からの換金手数料1パーセントと同額を市も負担して、合計2パーセントを子育て支援基金に積み立てております。

子育て支援基金は平成11年3月23日に寄付金などの受皿として施行され、各種子育て支援策に運用されており、近年では法定外予防接種の一部助成や子ども未来館運営費などに活用されておりました。

また、平成19年10月1日から平成31年3月31日までの販売期間において、支援券の取扱店は500店舗にのぼり、広く市内において利用することができ、地域における消費拡大につながったものと思われま。

子育て支援券の換金実績といたしましては、平成30年度までの累計で18億8,395万9千円であり、子育て支援基金への積立額は、3,767万9,180円となりました。

子育て支援券の利用につきましては、近年未換金の額が増加し、その利用促進が課題となっており、広報紙を利用した周知など普及活動を実施してまいりましたが、改善の兆しが無い事、換金つまり手数料を負担する店舗が一部の大型店に集中してきてしまった事などもあり、検討した結果、一定の事業効果はあったと判断し、販売を終了することとなりましたので、廃止に伴う影響はほぼ無いと考えております。

②政策推進課では、若い世代への結婚支援等に取り組んでおり、結婚に対して真剣に目を向ける働きかけを行うために、社会に出る以前の在学時から男女共同参画の意識の醸成を図るために講座や講演会を開催しております。

また結婚支援事業として平成26年度から婚活マスター制度を開始し、出会いの機会創出の支援及び仲介する人材、婚活マスターを育成し、独身男女に寄り添った支援を続けることで、市内における婚姻件数の増加を目指しております。

また、対象要件はございますが、結婚に伴う新生活を経済的に支援するための制度として住居費や引っ越し費用に対し最高で30万円を支給する「大田原市結婚新生活支援補助金」もございます。

今後こうした制度を活用しながら少子化対策に取り組んでまいります。

懇談テーマⅢ 『産業の振興・雇用について』

農林産物の鳥獣害対策について、本市の被害状況と今後の対策について伺いたい。

【回答】

野生鳥獣による農作物被害については、主に黒羽地区の農家へのアンケート調査結果から、イノシシの被害額で平成28年度1,061万6千円、平成29年度931万4千円、平成30年度665万2千円となっており、数字上は減少傾向にあります。

また、ハクビシンの被害額は、平成28年度45万5千円、平成29年度163万8千円、平成30年度217万6千円という状況であり、年々増加傾向となっております。

平成25年度に鳥獣被害対策実施隊を立ち上げ、現在は5名の民間隊員及び3名の市職員の合計8名で活動しており、過去3年間のイノシシ捕獲実績としては、市全体の捕獲総数501頭のうち、実施隊によるものが175頭であり、約4割弱を占めております。

有害鳥獣対策の市の支援ですが、従来の防護柵設置に対する補助及びイノシシ等捕獲活動に対する補助制度に加えて、今年度から狩猟免許取得費及び猟銃購入補助金制度を創設いたしまして、狩猟免許の新規取得者を増やすことで後継者の育成や従事者を増加させるための支援をしていきたいと考えております。

懇談会でいただいた主なご意見等（一部抜粋）

ハクビシンを捕獲した場合、市で処分してもらえるのか。

【回答】

有害鳥獣の捕獲は通常ですと免許が必要になりますが、ハクビシンについては自宅の敷地内ということがほとんどですので、市の許可を出すことによって自宅で罠を仕掛けて取ることが可能なものになっています。

今のところ、罠でかかったものについては自分のところで処分をしていただいております、捕獲したハクビシンの焼却処分は行っておりません。

現時点では「焼却場の方で受けます」ということは言えない状況ですが、那須町と共同で行っているところでもありますので、今後、議題に挙げさせていただきたいと思っております。

黒磯の子どもたちが黒磯から那須塩原まで電車で行き、そこからバスで通うという手段をとっているが、黒磯駅からバスを出してもらえないか。

【回答】

現在、那須塩原駅から黒羽高校まで行っている路線が朝2便あり、帰りも2便ありますが、黒羽高校

からは黒磯の方から1便を出してくれないかという提案をされています。

1台バスを増発すると一千万弱かかることになるため、2便のうちの1便を黒磯駅から回すことについて話し合いを行い、来年、話が整った上で4月からどういう形にするかということで協議を進めて参ります。

今後は7月中の協議、秋に向けての協議に向かうという段取りで進めております。

選挙の投票日の時間短縮について、選挙があるたびに市から立会人を選んでくださいという電話が来るが、立会人は朝7時から長時間拘束されるため頼みづらい。

今は期日前投票もあり、そこまで時間を延ばしてやる必要があるのかと考えている。できれば投票時間を短縮していただきたい。

【回答】

県内の状況を見ますと、山間部のある市町は短縮しているところがあります。

短縮して良いかどうかということに関しては、実際に投票率が下がらないのか、選挙人の方々の権利を奪わないかということを中心に検証する必要があります。

時間短縮についてのご意見・ご要望があるということ、市選挙管理委員会に伝え、過去の統計データを元に検討してまいります。

⇒令和2年3月2日に開催された大田原市選挙管理委員会において、令和2年11月に執行が見込まれる栃木県知事選挙から投票日当日の投票終了時刻を2時間繰上げ、午後6時とすることで方針が決定されました。（令和2年3月25日追記）

消防団の新規加入について、新しい人がどうしたら入っていただけるかということ、市全体でも考えていただきたい。

【回答】

両郷地区の市政懇談会で、「操法競技会の練習をするのに拘束時間が長いところがネックになっているのではないか」、「年齢構成が高くなっている地区の操法競技については大会の免除等を考えられないか」という提案がございました。

操法競技というのは実際には水をはじかないかもしれませんが、現場では実際に水をはじく訳で、そのための訓練でありますので、実際には消防団員が現場に行って命をかけて火を消す訳ですから、それを全くやらないという訳にはいかないと思いますので、やり方をなるべく時間を短縮するような形で、あるいは操法競技についても別段の方法を、免除できるかどうかは消防団の幹部と協議した上で、何か対策を取れたらというような回答をさせていただきました。

市の施策としては、市職員採用試験の二次試験の時に消防団加入の意思確認をして、市の職員になった時には加入していただいたり、消防団を経験して辞められた方で70歳未満の方については昼間の出場などをやっていただくということで機能別消防団に入らせていただいております。

また、消防団サポート事業として、消防団員と家族が、市内の店舗を利用したときに消防団員であることを示すといくらか割引をしてくれたり、サービスをしてくれるというようなサポート事業をやっていきます。

今年度は、消防自動車は通常の免許証だと運転することができないため、中型免許証取得に対する補助制度を設けました。

このような制度を駆使しながら、なるべく消防団員の数を減らさないように、定数にもっていけるように今後も対応していきたいと思っております。

紫陽花まつりでお客さんから要望があり、黒羽城址公園の駐車場にある女子トイレが全部和式のため、1箇所でも良いので洋式に変えていただきたい。

【回答】

早急に対処します。

最近空き家が増えており、所有者不明の空き家があるが、解体と撤去を市でできないか。

【回答】

そのような空き家が市内にも何軒かあり、我々も処置に苦慮しております。

空き家法の関係で、特定空き家という認定をすれば解体・撤去はできますが、まずは空き家の場所を教えていただき、持ち主を探して交渉したいと思います。